

定時制高校におけるキャリア発達を促す「総合的な学習の時間」の在り方 — 場や集団の工夫と外部資源の活用を通して —

教職実践専攻・ミドルリーダー養成コース
学籍番号 17GP406 氏名 外川 知絵

1 はじめに

(1) 定時制高校の現状

中央教育審議会（以下、中教審）高等学校教育部会（2014）によると、定時制・通信制（以下、定通制）の高等学校は、勤労青年のための後期中等教育機関としての役割に加え、多様な学びのニーズの受皿という役割を増している。また、不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会提供など、自立支援等の面でも大きく期待されている。

(2) キャリア教育の定義と育成すべき能力

中教審（2011）は、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義した。高校の職業的（進路）発達の段階を「現実的探索・試行と社会的移行準備の時期」とし、発達課題を①自己理解の深化と自己受容、②選択基準としての職業観・勤労観の確立、③将来設計の立案と社会的移行の準備、④進路の現実吟味と試行的参加の4点とした。

(3) 本校の現状

本校の定時制課程は、午前部・午後部・夜間部から成る三部制・単位制普通科であり、社会人としてしっかりと生きていける力をつける教育を目指している。生徒数は毎年300名程度で、入学年次（1年次）、中間年次（2・3年次）、卒業年次（4年次および3年卒業を目指す3年次）に分かれている。社会性や学力の面で課題を抱え、特にコミュニケーションを苦手とする生徒が多数在籍しており、能力の個人差も非常に大きいため、教科指導のみならず生活指導にも注意を要する。平成29年度卒業生の進路状況は、就職59.7%、進学30.6%、その他アルバイト等が9.7%となっており、進路選択の多様性も増している。個々の能力や特性を生かした進路選択を促すため、授業や学校行事、総合的な学習の時間（以下、総学）等を通し、キャリア形成の基礎づくりを行っている。

(4) 研究の目的

本研究では、クラスの生徒が揃いかつ全年次で同一時間に展開されている総学に注目し、実施場所や集団編成の工夫、外部資源の活用等について、筆者が所属する夜間部を中心に実践する。本校の総学の目的は、「自己を深く見つめ、主体的に判断し、自分の将来を思い描き、未来を切り拓く力を養う」と「他者との共生・関わりを理解し、問題の解決に協同的に取り組み、そのための学び方・考え方とともにコミュニケーション能力や文章表現能力を高める」の2点である。キャリア教育の定義や学習指導要領等も考え併せ、本校の実践においては「自己を深く見つめる」、「他者との共生・関わりを理解する」、「表現能力を高める」の3つを学習目標とする。また、事前・事後のアンケート調査から、キャリア発達を促す上で各工夫にどのような効果があるか検討する。

2 総学の目標と現状

(1) 総学の目標

現行の学習指導要領における総学の目標は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする」である。また、中教審教育課程部会（2016）は、高校の総学を「実社会・実生活から自ら見いだした課題を探究する」時間にし、「自分のキャリア形成の方向性を考えることにつなげる」よう提言した。

(2) 定時制高校生の生活と意識

日本高等学校教職員組合定通部（以下、日高教定通部）（2010）は、定通制高校生の意識調査から、将来を考える際の高校卒業資格の重要性を指摘した。深谷ら（1995）の調査でも、高卒資格について51.4%が「なんとしても必要」と答え、「かなり必要」「やや必要」を含むと92.5%になった。かつては中学卒の求人もあったが、現在の求人の多くは「18歳以上」「高卒以上」等の条件がある。日高教定通部のアンケートには「辞めたら後がない」「もっといろいろな事を知って、自分の進路を決めたい」などの記述がある一方、自己の進路や職業適性について42.4%の生徒が「わからない」と回答した。

(3) 本校の総学の課題

総学は「HOPE」と名付けられ、自己・他者理解や自己実現に向けた学習計画が立てられている。パソコンやプロジェクター等の情報機器が整備されているため、映像資料やインターネットを活用した学習活動が展開できる。しかし、基礎的な知識の習得にとどまり、個人で思考する時間や、互いに意見を伝え合う時間が十分設定されていない。また、年度ごとの内容の見直しが十分でなく、進級してもまた同じ学習をすることがあり、年次や発達段階に応じた、発展性のある学習計画を立てる必要がある。

3 実践研究における重点項目

(1) 教職員の情報共有の方法

学習活動の充実のためには、教職員の協同が不可欠である。立石（2014）は生徒の学習意欲の向上につながるキャリア教育の条件に、生徒に身に付けさせる能力を教師が理解し、生徒が積極的・具体的に行動するよう指導することなどを挙げた。しかし、本校は年次会議や部会議が時間割に組まれておらず、生徒情報や指導方針共有の時間確保が非常に難しい。これは、三部制の運営のため、教職員の勤務形態が2つに分かれている影響が大きいためであると考えられる。全教職員が揃う時間が午後の4時間半しかないことに加え、教員は所属部だけでなく他部の授業も担当している。また、部と部の間の時間も長くないため、わずかなタイミングを見計らって打ち合わせている。生徒の現状に即した総学運営のためにも、定期的な協議の場が必要である。

(2) 年次ごとの学習内容の発展

本校の総学の学習計画は、1年次から4年次まで4パターンある。進路指導として必要な履歴書の書き方や求人票の見方などは、全年次の総学計画も含まれている。しかし、年次ごとの発展性に乏しく、同じことの繰り返しになっている部分がある。同じ題材で

も、年次によって立場や状況を変えて考えたり、感想の記入から発表・討論へと表現レベルを高めたりする必要がある。

(3) 外部資源の活用

校外の諸機関から得られる教材(ワークブックやDVD等)、セミナーや講師派遣等の事業を活用して総学を実施する。県教育委員会や県総合学校教育センター等の教育関係機関をはじめ、警察や保健所等の公共機関、その他企業・団体など、各所の専門性を借りて生徒の学びを深めたい。特に人的資源として、教職員の社会的ネットワークを生かし、その人脈の中からゲストティーチャーを招きたい。遠藤・堀内(2017)は、教師が果たせない役割をゲストティーチャーが担い、教師と生徒の媒介となることや、教師や生徒と対話する中で学習内容を深める効果があることを示唆した。学習内容によっては、保護者や卒業生、周辺地域の方が講師に適する場合も考えられる。社会性に課題のある生徒には、教職員から保護者・卒業生・地域住民へ、さらに教職員の知人から一般社会の方々へと、「身近な他者」から段階的に関係を広げるのがよいだろう。生きる上で重要な命・仕事・お金等に対する考えを、切実さや臨場感を持って経験者本人に語ってもらいたい。

(4) 実施場所や集団編成の工夫

総学の学習集団編成を、クラス内の交流から、クラス・年次の枠を超えた交流へ発展させ、協同する相手に多様性を持たせたい。様々な他者との関わりを通し、まず適切に「受け入れる(聞く・読む)」ことができるよう指導する。それに伴ってものの見方や考え方が深まり、「送り届ける(話す・書く)」ための表現力も鍛えられると考える。そのためには、一方的に知識を与えるのではなく、ペア・グループ活動など表現する(伝え合う)機会を設ける必要がある。併せて自己理解の深化も図るため、それぞれの学習活動を通じた自己の変容を見つめる時間を、単元の区切りや授業回数のもとまると共に設定することも重要である。年度末にまとめの発表会を企画し、特別教室や体育館等を利用して、異年次生や教職員を前に生徒が自身の夢や目標について述べる機会を作りたい。

4 研究の経過

(1) 本校教職員への本研究に関する概要説明

実践の場として協力を求める夜間部教員に対し、年度始めの夜間部会議において本研究の概要説明を行い、教職員全体へは4月中旬の朝会後に説明した。全体説明の際、資料は配付せずスライドを見ながら聞いてもらったが、1回の説明では正確に伝えることができなかった。そこで、その後の分掌会議等で説明を加えたり、個別に質問を受けたりして、徐々に理解を得ていった。勤務に復帰する前(昨年度末)から、こまめに研究の主旨を伝えていく必要があると感じた。

(2) キャリア教育推進委員会での協議

本校は、主にキャリア教育推進委員会が総学の計画を担当している。今年度は、進路指導部の教員をリーダーとして、各部からそれぞれ1~2名の委員が選ばれ、合計5名で運営している。今年度の総学の全体計画は前年度に作成済みであるため、その範囲内でできる工夫を考えなければならない。そこで、毎回の指導計画を見直して、不足資料の収集や新しいデータへの更新を行い、ワークシートも生徒の現状に合うよう作り直し

ている。各年次の計画担当者は決められているが、委員の担任経験や教科の専門性も生かし、互いに知恵を出し合って計画・運営に当たっている。また、実施の状況や改善点を担任から聞き取ったり、職員室のミーティングテーブルを活用し、担任を交えてのミニ会議も行われたりしている。

(3) 夜間部会議の設定

生徒の現状に即した総学運営のため、夜間部担当教員が全員空き時間となる、午後部のホームルーム活動の時間に部会議を設定した。議題は、総学の内容や学校行事、生徒情報など、その時々に必要な事項である。事前に校内LANに要項データを置き、各自で必要事項が入力できるようにした。集合が難しい場合は、夜間部教員内で資料回覧を行い、他の業務に支障が出ないように配慮している。

(4) 総学の学習目標の確認と共有

宮川ら(2018)は、総学の目的・目標の理解不足から、教育内容や教育方法、評価でも様々な課題があると指摘した。そこで、第1回オリエンテーションの生徒用資料に学習指導要領と本校の総学の目標を記載し、全校生徒と全担任で内容を確認できるようにした。目標の中の言葉がわからない生徒もいると想定し、担任の先生方に内容を噛み砕いて説明してもらおうようお願いした。なお、夜間部は担任以外の教員も含めて確認した。

(5) 総学についての事前アンケートの実施

これまでの総学に対する意識調査として、新任者を除く全教員と夜間部生徒を対象に事前アンケート調査を行った。回収率は教員 85.2% (27 名中 23 名)、生徒 100% (43 名) だった。調査用紙は小塩・西口(2007)「質問紙調査の手順」を参考に作成した。各項目に対し、「1 (そう思わない)」「2 (あまりそう思わない)」「3 (どちらとも言えない)」「4 (少しそう思う)」「5 (そう思う)」の5段階で回答してもらい、15 項目中 2 項目(質問 14, 15)に自由記述欄を設けた。集計方法は、回答 1～5 の値を点数とし、選択者数にそれぞれ点数を掛け、総数を全回答者数で割って平均値を求めた。

生徒用アンケートの質問項目	教員用アンケートの質問項目
①私は卒業後の進路志望が決まっている。	①生徒の卒業後の進路志望は明確である。
②私は「総学」が何を学ぶための時間か知っていた。	②私は「総学」の学習目標を知っていた。★
③私には将来の夢や目標がある。	③生徒には将来の夢や目標がある。
④私は自分の短所を知っている。★	④生徒は自分の短所を知っている。★
⑤「総学」の内容は今の生活に役立つものだ。	⑤「総学」の内容は生徒の今の生活に役立つものだ。
⑥私は「総学」の授業は大切だと思う。	⑥私は「総学」の準備や指導は大切だと思う。★
⑦卒業後の進路は自分で決めた(決めた)。★	⑦生徒は卒業後の進路を自分で決めている。
⑧「総学」の内容は卒業後の進路選択に役立つものだ。	⑧「総学」の内容は生徒の卒業後の進路選択に役立つものだ。
⑨「総学」の内容は将来の生き方に役立つものだ。	⑨「総学」の内容は生徒の将来の生き方に役立つものだ。
⑩私は自分の長所を知っている。★	⑩生徒は自分の長所を知っている。★
⑪私は「総学」の授業に真剣に取り組んだ。	⑪私は「総学」の準備や指導に熱心に取り組んだ。★
⑫「総学」の内容は他教科の勉強にも役立つものだ。	⑫「総学」の内容は生徒の他教科の学習にも役立つものだ。
⑬私は「総学」でいつ・何を学ぶか知っていた。	⑬私は「総学」の(おおまかな)年間計画を知っていた。
⑭私は「総学」の授業が好きだ。	⑭私は「総学」の準備や指導が好きだ。
⑮「総学」に新たに取り入れてほしい学習内容がある。	⑮「総学」に新たに取り入れてほしい学習内容がある。

表 1 生徒用および教員用事前アンケートの質問項目

①教員用アンケートの結果と特徴

最も点数の高かった項目は⑥だが、②や⑩になると得点が下がる。このことから、総学の重要性は認識しているが学習目標は明確に理解しておらず、指導に積極的になれなかった教員が多いと言える。これは、前述した宮川ら（2018）の指摘と一致する。また、⑩よりも④が高く、生徒たちが自分の長所より短所を強く意識していると捉えている。加藤（2014）は日本の青年の「自分への満足感」が、他国と比べ非常に低いことを指摘した。本校においても、「長所が無い」とか「向いている仕事（学問）が無い」などと話す生徒が多く、教員は日常的に生徒の自己有用感の低さを感じていると思われる。自由記述で目立ったのは、総学への負担感の強さだった。他業務に追われ、内容を十分理解しないまま指導してしまったことや、計画と生徒の現状とにギャップがあり、学習内容が生徒になかなか浸透しなかったことなどが記されていた。様々な課題を抱える本校生徒には、機を捉えた指導が重要であるため、より柔軟な総学の実施方法を検討する必要がある。

②生徒用アンケートの結果と特徴

最も得点の高かった項目は⑦で、卒業後の進路に対する意識の強さがわかる。これは深谷ら（1995）の調査結果とも一致する。しかし⑩の得点が最も低く、それに比べて④は1点高くなる。加藤（2014）が指摘したように、本校生徒の自己有用感は低く、教員の認識と合致した。総学等を通し、将来の進路選択やキャリア形成に前向きに臨めるような支援が必要である。また、新たに取り入れてほしい学習内容に、「漢字の読み書き練習をしてほしい」という卒業年次生徒からの要望があった。基礎学力が不十分な生徒に対する、入学年次からの早期支援を検討しなければならない。

（6）実施場所・集団編成の工夫と外部資源の活用

①卒業生を招いての総学

卒業年次と中間年次（3年次）の総学に、本校夜間部を近年卒業した方（のべ5名）を招いた。高校生活の反省と現在の社会生活についての語り、質疑応答や在校生への助言をしてもらった。在校生と面識がある卒業生を招いたため、以前の様子に比べて良くなった部分やさらなる課題などを具体的に指摘し、在校生は自身の生き方について考えを深めていた。

②社会人を招いての総学

夜間部教員の知人から、社会福祉士と看護師の2名をゲストティーチャーに招いた。中間年次（3年次）4名を対象に、これまでの経験と気づきについての語り、質疑応答や助言をしてもらった。教員とゲストの意思疎通が円滑なため、生徒の様子を観察し、彼らの言葉を拾いながら臨機応変に進行できた。仕事やお金、命に関する話を、生徒たちはメモを取りながら熱心に聞いていた。この4名の中に、自分の将来についてどうしても積極的に考えられずにいる生徒がいる。コミュニケーションを非常に苦手とする彼が、入室時に自ら挨拶したり、ゲストに進路の悩みを相談したりし、普段とは違う様子を見取ることができた。

5 計画の変更と新たな取り組み

（1）生徒へのインタビュー調査の実施

当初の研究計画では、全年次の総学計画を見通し、必要な場面・年次を選定して実践

する予定だったが、上述した3年次生徒4名に変化が見られるようになったため、彼らへの支援を一定期間継続するよう変更した。そこで、自身や進路への認識などを把握するため、個々にインタビューを行った。高校入学時と今の自分を比べてどう思うかや、就職・進学先の選択を含めた将来への見通しなどについて質問した。総学に関して、率直かつ建設的な提案が寄せられたことは嬉しい驚きであった。生徒A～Dから聞き取った内容を、要約していくつか紹介する。

自分について	A	面倒くさがる癖があり、今何か行動できれば変わるが、できなければ全部面倒くさくなる。その境界線にいると思う。
	B	前は周囲に流されて、ふざけたりしていたが、今は自分に良い影響をくれる人や好きだと思える人が多い。
進路志望の状況	A	今まではメリットだけで進路を選んできたが、ここに来てデメリットも考えられるようになったので、よくわからなくなってきた。
	C	卒業後すぐに働けるような人間ではないと思うので、なんとなくではあるが大学に行こうと考えている。
ゲストについて	B	学校にいる人と話すだけではわからないこともあるので、これからも来てほしいと思う。
	D	ゲストが大人の方だと、心に響く話をしてくれる。
これからの総学	A	みんなと一緒に活動では、話したいことも全部言えずに終わってしまう。先生(筆者)とゲストとの三者面談もいいと思う。
	C	履歴書の書き方など、具体的で細かいことも今のうちからやっておきたい。ゲストが来る時は、個別面談もしてみたい。

(2) 「夜間部だより」の発行

夜間部生徒の活動とその様子などをまとめた「夜間部だより」(図1・2)を作成し、生徒・教職員への配布、各家庭への発送(定期考査後の成績書類に同封)を行っている。今年度は、ゲストを招いた総学の様子を伝えるための「共に学ぶ」というコーナーを新設した。それを見た他部の先生方から、「実際にどのような総学を行っているかわかった」や、「ゲストティーチャーとして、参加の依頼ができそうな卒業生(知人)がいる」などの声が寄せられ、情報の発信のみならず共有にも活用できている。



図1 夜間部だより(6月号)



図2 夜間部だより(10月号)

(3) 三部に関わる総学の実施

NPOに講師派遣を依頼し、金銭基礎教育プログラムを全ての部で実施した。当初は夜間部のみの実施で提案したが、より多くの教員に講師補助に当たってもらうことで、次年度以降の本校教員による実施を目指すことにした。講座では、興味を引く教材（カードや計算シートなど）を用い、生活とお金についてグループで話し合った。事後アンケートの結果、「良かった」が教員 78.6%、生徒 63.2%、「まあまあ良かった」が教員 21.4%、生徒 34.1%だった。生徒の自由記述には、「いつも親に任せて気にしていなかった家賃などの相場が知れて良かった」や、「将来就職する時にこの知識を役立てようと思った」などの感想が寄せられた。また、貯金や節約の仕方、資金が無くなってしまった時の対処法について知りたいという意見もあった。なお、午後部が体育館を使用して実施したが、机や椅子の設置・撤去係に夜間部生徒のボランティアを募集した。当日は夜間部生に加え軟式野球部も参加し、15名ほどで運営補助に当たってくれた。総学の一場面に、生徒たちの活躍の場を設けることができて良かった。

(4) 生徒たちによる学習の振り返り

3年次生徒が自分たちで学習を省察できるようにするため、総学での活動の様子をiPadで撮影し、振り返りを行う際の映像資料として活用した。具体的な学習場面は、教員の知人（弘前大学教職大学院の現職院生）をゲストティーチャーに招いて行った模擬面接である。ゲストと本校教頭に面接官役を依頼し、通常の教室を控室に、音楽室を面接会場に設定して、より実際に近い形で実施した。その翌週、本人を含めた4人分の評価が記入できるワークシートを用意し、音楽室のモニターで面接時の映像を見ながら振り返りを行った。生徒たちが自分の映像を見ることは日頃ほとんど無く、初めはきまりが悪そうな様子だったが、気づいた点をメモしながら真剣に取り組んでいた。一番答えづらかったのは何か尋ねてみると、全員が「自分の長所」と話した。「自分を良く言うことに強い抵抗がある」、「そもそも自分に良いところがあると思えない」という理由であった。事前アンケートでも指摘された自己有用感の低さが表れており、積極的なキャリア形成のためにも、互いの長所を一緒に考えることを提案し、今後の総学計画に取り入れることにした。また、振り返りで反省点に挙げられた入退室の作法を再確認できるように計画し直し、通常の教室と会議室を用いて、引き戸・開き戸の両方で入退室練習を行った。



模擬面接



振り返り



入退室の作法の再確認

6 事後アンケートの実施と分析

今年度4月から11月に実施された総学に対する意識調査として、新任者を含めた全教員と夜間部生徒を対象に事後アンケート調査を行った。回収率は教員 88.5% (35名中31名)、生徒 90.6% (43名中39名)だった。調査用紙の作成と集計は、事前アンケート

トと同様の方法で行った。ただし、教員と3年次・4年次生徒への質問項目は、学習集団や実施場所、ゲストティーチャーに関する項目⑩～⑱（自由記述有り）を追加した。

1年次・2年次生徒への質問項目	3年次・4年次生徒への質問項目	教員への質問項目
①私は卒業後の進路志望が決まっている。	①私は卒業後の進路志望が決まっている。	①生徒の卒業後の進路志望は明確である。
②私は「総学」が何を学ぶための時間か知っていた。	②私は「総学」が何を学ぶための時間か知っていた。	②私は「総学」の学習目標を知っていた。
③私には将来の夢や目標がある。	③私には将来の夢や目標がある。	③生徒には将来の夢や目標がある。
④私は自分の短所を知っている。	④私は自分の短所を知っている。	④生徒は自分の短所を知っている。
⑤「総学」の内容は今の生活に役立つものだ。	⑤「総学」の内容は今の生活に役立つものだ。	⑤「総学」の内容は生徒の今の生活に役立つものだ。
⑥私は「総学」の授業は大切だと思う。	⑥私は「総学」の授業は大切だと思う。	⑥私は「総学」の準備や指導は大切だと思う。
⑦卒業後の進路は自分で決めた（決めたい）。	⑦卒業後の進路は自分で決めた（決めたい）。	⑦生徒は卒業後の進路を自分で決めている。
⑧「総学」の内容は卒業後の進路選択に役立つものだ。	⑧「総学」の内容は卒業後の進路選択に役立つものだ。	⑧「総学」の内容は生徒の卒業後の進路選択に役立つものだ。
⑨「総学」の内容は将来の生き方に役立つものだ。	⑨「総学」の内容は将来の生き方に役立つものだ。	⑨「総学」の内容は生徒の将来の生き方に役立つものだ。
⑩私は自分の長所を知っている。	⑩私は自分の長所を知っている。	⑩生徒は自分の長所を知っている。
⑪私は「総学」の授業に真剣に取り組んだ。	⑪私は「総学」の授業に真剣に取り組んだ。	⑪私は「総学」の準備や指導に熱心に取り組んだ。
⑫「総学」の内容は他教科の勉強にも役立つものだ。	⑫「総学」の内容は他教科の勉強にも役立つものだ。	⑫「総学」の内容は生徒の他教科の学習にも役立つものだ。
⑬私は「総学」でいつ・何を学ぶか知っていた。	⑬私は「総学」でいつ・何を学ぶか知っていた。	⑬私は「総学」の（おおまかな）年間計画を知っていた。
⑭私は「総学」の授業が好きだ。	⑭私は「総学」の授業が好きだ。	⑭私は「総学」の準備や指導が好きだ。
⑮「総学」に新たに取り入れてほしい学習内容がある。	⑮「総学」に新たに取り入れてほしい学習内容がある。	⑮「総学」に新たに取り入れてほしい学習内容がある。
	⑯普段の教室以外の場所を使うのは、私の学習に効果的だ。	⑯普段の教室以外の場所を使うのは、「総学」に効果的だ。
	⑰ペアやグループで話し合うのは、私の学習に効果的だ。	⑰ペアやグループで話し合うのは、「総学」に効果的だ。
	⑱外部からゲストが参加するのは、私の学習に効果的だ。	⑱外部からゲストが参加するのは、「総学」に効果的だ。

表2 生徒用および教員用事後アンケートの質問項目

質問	1年次			2年次			3年次			4年次			教員		
	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差
①	3.00	2.63	-0.37	3.00	3.00	0	3.75	3.75	0	4.31	4.85	+0.54	2.52	2.94	+0.42
②	2.20	3.00	+0.80	3.50	3.57	+0.07	4.25	4.00	-0.25	4.15	4.46	+0.31	3.74	3.68	-0.06
③	3.00	3.25	+0.25	3.50	3.43	-0.07	3.50	3.25	-0.25	3.92	4.62	+0.70	3.09	3.19	+0.10
④	3.90	4.00	+0.10	4.06	4.14	+0.08	3.75	3.75	0	4.31	4.85	+0.54	3.43	3.03	-0.40
⑤	3.50	2.88	-0.62	3.63	3.43	-0.20	4.50	4.00	-0.50	4.38	4.77	+0.39	3.61	4.13	+0.52
⑥	3.70	3.63	-0.07	3.63	3.50	-0.13	4.00	4.25	+0.25	4.31	4.69	+0.38	4.43	4.65	+0.22
⑦	4.60	3.88	-0.72	3.94	3.86	-0.08	4.25	4.25	0	4.38	4.62	+0.24	3.26	3.23	-0.03
⑧	3.30	3.00	-0.30	3.75	3.64	-0.11	4.00	4.00	0	4.62	4.92	+0.30	4.04	4.26	+0.22
⑨	3.70	3.13	-0.57	3.63	3.57	-0.06	4.00	4.00	0	4.54	4.77	+0.23	3.87	4.26	+0.39
⑩	2.00	1.88	-0.12	2.94	3.21	+0.27	3.50	3.25	-0.25	3.92	4.38	+0.46	2.70	2.42	-0.28
⑪	3.10	3.50	+0.40	3.38	3.64	+0.26	3.75	3.50	-0.25	4.08	4.69	+0.61	3.30	3.13	-0.17
⑫	2.40	2.88	+0.48	3.50	3.21	-0.29	3.00	3.00	0	4.08	3.77	-0.31	3.30	3.35	+0.05
⑬	3.10	2.63	-0.47	3.13	2.86	-0.27	2.75	3.50	+0.75	3.77	4.08	+0.31	4.09	4.00	-0.09
⑭	3.20	3.13	-0.07	3.06	3.07	+0.01	3.50	3.00	-0.50	3.85	4.15	+0.30	3.14	2.97	-0.17
⑮	1.80	2.13	+0.33	2.50	2.21	-0.29	2.00	2.50	+0.50	1.85	1.85	0	3.38	3.03	-0.35
⑯								3.75			4.00			3.58	
⑰								3.25			4.54			3.65	
⑱								4.50			4.38			4.19	

 得点が高く、注目した値
 得点が低く、注目した値
 ※単位は「点」

※単位は「点」

表3 事前・事後アンケートの各項目の得点と差

(1) 1・2年次の結果と特徴

1・2年次とも項目④が最も高く、それに比べて⑩が低いという結果になった。自分の長所より短所を強く意識する傾向は事前アンケートにも表れていたが、特に1年次は④と⑩の差が2.12点と、事前アンケートよりさらに大きくなった。学習や行事等、日々の高校生活を通して前向きにキャリア形成ができるよう、自己有用感の低さの原因をきちんと把握して対処する必要がある。自由記述欄には、事前アンケートよりも多くの意見が寄せられた。項目⑭に対し、「自分たちの人生に影響を与える授業だと思う」、「将来

についてみんなで話し合える時間だ」という肯定的な感想が寄せられた。また、⑮には「心理に関することを学びたい」という意見があった。

(2) 3・4年次の結果と特徴

項目⑧に対する得点が高く、キャリア形成の基礎づくりを目指すねらいが生徒にもある程度実感されていると考える。しかし、キャリア教育に特化しているため⑫の得点は低く、教科横断的な学習になっていない。総学は新学習指導要領で「総合的な探究の時間」となり、知識や技術をより総合化するよう指導されていることから、各教科との連携が今後の課題である。3年次生徒の⑥の得点が上がった一方、⑭は下がった。「将来役に立つが、さらに先のことまで学べていない」、「いざ取り組もうとすると面倒に感じてしまう」という理由が挙げられ、本格的に将来と向き合うようになったことへの負担感や不安感などが、得点が下降した原因であると考えられる。

(3) 教員の結果と特徴

項目⑥の得点の高さが特徴的である一方、⑪や⑭の得点は低く、事前アンケートと同様に自由記述には総学への強い負担感が表れていた。「学習計画や資料の見直しが進んでいる」という評価もあったが、様々な課題を抱える生徒に対するキャリア教育は、やはり困難が多いようである。「副担任とティーム・ティーチングを希望する」という声もあり、他校に比べると少人数クラスではあるが、複数の教員によるきめ細やかな指導が、生徒・教員双方にとって必要であると思われる。

(4) 実践における工夫に対する意見

3・4年次生徒と教員のアンケートにおいて、場や集団の工夫と外部資源の活用に関し、項目⑯～⑳の自由記述欄に寄せられた意見をいくつか要約して以下に示す。

項目	工夫の良さを認める意見		工夫の問題点を指摘する意見	
	3・4年次生徒	教員	3・4年次生徒	教員
⑮	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画を見て勉強すると、わかりやすいし記憶に残る。 単純作業にならなくて良い。 パソコンを使ったり、大きなモニターで見たりすると頭に入る。 いつも同じ場所だと緊張感が無くなり、気分転換に良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の教室以外での授業の方が、生徒の反応が良い。 座学だけでない方が、生徒のためになる。 学習内容に合わせて、現地に行くなどでできれば実感できて良い。 生徒の興味や関心を引きやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境が変わると集中が切れてしまうかもしれない。 いつもの教室でもやることは同じだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境が変わることがストレスになる生徒もいるので、事前に予告しておく必要がある。 場所や周囲の環境に対応するまで時間がかかる生徒がいる。
⑰	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いによって、自分とは違った視点の考え方を知ることができる。 話し合いは社会人になっても必要なもので、効果的だと思う。 普段話さない人と交流すると、向上心がわいてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の意見を聞くことも、相手に自分の意見をわかりやすく伝えることも大切だ。 自分では気づかなかった視点を生徒が発見できるので良い。 ロールプレイを行うと客観的な視点を持てるように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容によっては、別に効果的だとは思えない。 少し話し合うのは良いが、自分でやった方が集中して進む場合もある。 グループだから話せることもあるれば、話じづらいこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的だと思うが、即席のペアでは話し合えない場合がある。 席順をしっかりと考えないと、生徒の集中力が弱まる場合がある。 人と関わることが難しい生徒には、場面設定で配慮が必要であり、ストレスも多いと思う。
⑲	<ul style="list-style-type: none"> ゲストしか教えられない知識や経験は、自分にとってとても重要だと感じる。 専門家が来ると、よりいっそうわかる。 先生の話や自分の調査より、経験者の語る内容の方が濃い。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ内容でも他者（担任以外）の話は説得力があるように思う。 身近にいる大人以外の話を聞く機会が無いと思うので、様々な社会人の話を聞かせてあげたい。 実際の場面を知る人の話は、教員にとっても有意義だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> あまり関係の無い人が来てても迷惑だ。 人それぞれ思うことは違い、自分は役に立つ内容だと感じなかった。 もっと色々なジャンルの職業の人に来てほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストが本校の実態を理解して行うならば効果的である。 三部合同であれば、時間を設定しやすいかもしれない。 初対面のゲストに適應するのが難しい生徒もおり、準備がしっかりできれば効果的である。

本研究で取り入れた工夫に対しては、得点と多くの意見から、生徒のキャリア発達を促す上で効果的であったといえる。しかし、ペア・グループ学習などは、生徒の社会的自立に向け訓練が必要であるが、個々の特性に応じた環境設定への配慮が求められる。また、ゲストティーチャーの継続的活用においても、いくつかの課題が挙げられる。一つは、教職員がより多くの人材、特に卒業生との関係をつないでおくことである。「身近な手本」として卒業生が在校生に与える影響は大きく、主導する教員の負担もあまり大

きくない。卒業後の連絡手段を確保し、積極的に本校の教育活動に参加してもらう雰囲気・体制づくりを進めたい。課題の二つ目は、ゲストに合わせ、時間割変更を検討することである。特に、夜間部の総学は一日の最後の授業（20:05～20:50）に設定されており、時間の遅さが参加の妨げになる可能性がある。非常勤講師が担当する授業もあるため、頻繁な時間割変更は難しいが、ゲスト・生徒・教員の負担を少しでも軽減できる方法を考えなくてはならない。

7 課題と今後の展望

（1）実施状況の省察と生徒の実態把握

総学の実施後、生徒の学習理解の状況や内容の発展度について、十分に省察できていない。特にキャリア教育の視点において、生徒が自己の在り方生き方まで考えを巡らすことができているか検討しなければならない。ワークシート等の学習成果の蓄積や生徒への定期的なインタビュー調査、複数の教員による生徒観察と記録、評価を行うため、より連携を密にして進めていきたい。

（2）柔軟性を持たせた総学の計画

生活上の様々な困難を抱える生徒の指導では、突発的事態への対応を求められることが多い。事前・事後アンケートから、総学を計画通り行うだけではその時々々の生徒の状況に適さない場合があり、担任が指導のしづらさを感じていることがわかった。年間計画に沿って指導案を作成しつつ、10分程度は担任が実施したいことができる時間を確保したい。このように、キャリア教育の積み重ねと、担任の思いを優先できる指導を両立させるような、柔軟性のある総学を目指したい。また、次期学習指導要領の「総合的な探究の時間」につながるよう、他教科の知識・技術を総合的に用いながら、地域・社会との関わりについて生徒が内省的に学習できるよう計画していきたい。

参考文献

- 1) 中央教育審議会高等学校教育部会（2014）「第28回参考資料3『初等中等教育分科会高等学校教育部会審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向けて～』」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_icsFiles/afieldfile/2014/06/19/1348819_06.pdf（2018年10月4日閲覧）
- 2) 中央教育審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf（2018年10月4日閲覧）
- 3) 中央教育審議会教育課程部会（2016）「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/09/09/1377021_1_7.pdf（2018年10月4日閲覧）
- 4) 日本高等学校教職員組合定通部（2010）「定時制・通信制生徒の意識と生活実態調査のまとめ」
http://www.zenkyo.biz/modules/senmonbu_torikumi/top.php?senmonbu_id=100（2018年10月4日閲覧）
- 5) 深谷昌志ほか（1995）「定時制高校生の生活と意識」（ベネッセ教育研究所『モノグラフ・高校生'95vol.45』）
- 6) 立石慎司（2014）「どのようなキャリア教育が高校生の学習意欲の向上をもたらすか」（国立教育政策研究所『国立教育政策研究所紀要第143集』151-166）
- 7) 遠藤大輝・堀内かおる（2017）「高等学校家庭科における教師の社会関係資本が授業にもたらす効果－プロを招いての味噌作り授業の考察から－」（日本家庭科教育学会大会『例会・セミナー研究発表要旨集第60回大会』31）
- 8) 宮川秀俊ほか（2018）「『総合的な学習の時間』におけるESD（持続可能な開発のための教育）の視点と展開」（中部大学『現代教育学部紀要第10号』39-46）
- 9) 小塩真司・西口利文（2007）「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
- 10) 加藤弘通（2014）「自尊心とその関連要因の比較：日本の青年は自尊心が低いのか？」（内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 第3部」）
http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf/b3_1.pdf（2018年10月4日閲覧）